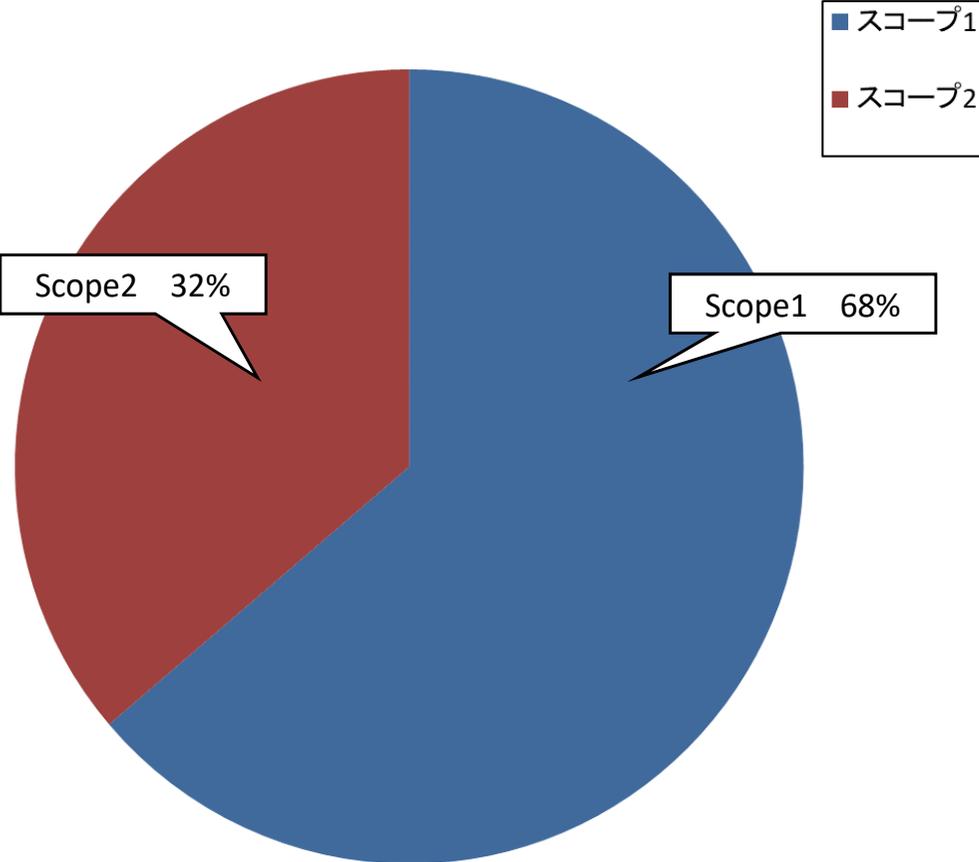


株式会社浜田

| 項目 | 内容 |
|--------|--|
| 1.企業情報 | <ul style="list-style-type: none">● 業種：産業廃棄物処理業● 事業概要：産業廃棄物処理業/スクラップ業● 事業規模：資本金3120万円 従業員数135名（2020年時点） |
| 2.削減目標 | <p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標：2030年に2018年比で50.4%削減 <取り組み></p> <ul style="list-style-type: none">✓ ガソリン・軽油の使用量を2020年度以降の環境目標に設定し、使用量削減を図る✓ 再生可能エネルギー電気への切替を推進する✓ 環境マネジメントシステムの運用を推進し、全社を挙げてCO2排出量削減に努める✓ 非化石証書やJクレジットも利用し、目標を達成する。 |

株式会社浜田

| 項目 | 内容 | |
|-----------------|---|---|
| 3.基準年のGHGインベントリ | <ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2の排出量の状況 <p style="text-align: center;">スコープ/カテゴリ別排出割合</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : 671 [tCO2] |
| |  <p>A pie chart titled 'スコープ/カテゴリ別排出割合' (Emission Ratio by Scope/Category). The chart is divided into two segments: a larger blue segment for 'スコープ1' (Scope 1) at 68%, and a smaller red segment for 'スコープ2' (Scope 2) at 32%. A legend to the right of the chart identifies the colors: blue for 'スコープ1' and red for 'スコープ2'. Callout boxes point to each segment with their respective percentages.</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : 311[tCO2] |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 : [tCO2] (任意) <p>※今回は、SCOPE3算定なし</p> |

株式会社浜田

| 項目 | 内容 |
|-------------------------|---|
| 4.気候変動によるリスクと機会の分析 | <p><リスク></p> <ul style="list-style-type: none">✓ 原材料調達に重大な変化が生じる可能性や、対策の遅れによって工場の稼働停止が懸念される✓ 顧客や地元市民からの要請により、CO2排出量削減を求められる可能性があり、営業機会の損失につながる恐れがある <p><機会></p> <ul style="list-style-type: none">✓ 再エネの普及や積極的な情報開示によって、企業価値が向上し新たなビジネスチャンスが生み出される可能性がある✓ 環境配慮型経営の実行により、従業員の環境意識改革と、就労するうえでのモチベーション向上に繋がる可能性がある |
| 5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など | <ul style="list-style-type: none">✓ SBT取得により、顧客からの削減要請に応えることを示し、ビジネスチャンスを拡大することを期待している。✓ 太陽光パネルのリサイクル事業を行っているため、再エネ化を推進することが自社事業拡大にも結果としてつながるため。 |

株式会社浜田

| 項目 | 内容 |
|-------------------|---|
| 6.目標設定のプロセスと社内の議論 | 社内ISO推進委員会において、環境目標やプロセスについては周知を行った。目標の実現可能性について社内で意見があったが、2030年時点の事業環境の変化は見通せないことや、社会的要請に応えてバックキャストで目標を設定するという方針を説明し、理解を得た。 |
| 7.今後の課題 | Scope 1の削減において、排出の大多数を占めている運搬車両による化石燃料排出量の削減をどのように進めていくかが課題である。ハイブリッド車や電気自動車などへの切替について、技術的観点とコストの観点を勘案し、導入のタイミングについては検討を進めていく必要がある。 |